

教育実習Ⅶ（小学校）の報告

広島文教大学教育学部

教育学科 教授 村上典章

1 はじめに

教育実習Ⅶは、次年度から「学校教育の体験活動」へと移行する。これまで教育実習Ⅶは本学独自の実習として、小学校教員免許必修の教育実習（教育実習Ⅱ・Ⅲ）に先駆けて、小学校教育の実際にふれ教職への自覚を高めることを目的として実施してきた。その目標は、学校と教員の仕事、子ども、基本的な指導技術についての理解を深め、教育研究課題と自己を発見し、教職に就くことへの自覚や使命感を高めることであった。この実習には、実習体験を通して自己の適性を判断する、多様な文章の添削指導により文章表現力を高める、学習会を通して教育研究の視点や協議のスキルを身につける、宿所での共同生活やグループワークを通して主体性、協同性を育て自己の課題に対する早期取り組みの契機とする等の点で意義があった。

2 実施のスケジュール

項目	時期	主な内容
事前学修 (学内)	4月～6月	<ul style="list-style-type: none"> ・実習の意義、目的、心構え等を再確認する。 ・3年生からの紹介を聞き、実習校を選択、決定する。 ・実習校毎に実習長を中心とする役割分担を行い、実習校、宿所等に関する情報収集、事前学修を行い、パンフレットを作成し、教育委員会、実習校、宿所へ送付する。 ・文章講座「自己紹介の書き方」、「目標の書き方」、「観察・記録のしかた」、「礼状の書き方」を参考に、添削指導を受けて完成する。 ・「子どもとの関わり方について」、「特別支援教育について」等の講義を受け、理解を深める。
観察実習 5日間 (学外) *宿所へは前日 (日曜日) 移動	6月第3週	<ul style="list-style-type: none"> ・実習の内容は実習校により計画される。内容の例として、①校長、教頭、教務主任、生徒指導主事、養護教諭講話、②全学年の授業観察、③スポーツテスト、環境整備作業（教室掲示、プール掃除）等の補助、④学級活動（レクリエーション）の計画、指導等が挙げられる。 ・宿所では、宿泊担当教員の添削指導を受けながら教育実習日誌等の記録をつけ、学修会で討議することで学んだことを客観化、共有化しながら理解を深める。また、生活面で分担された役割を果たす。
事後学修 (学内)	6月～7月 報告会は 7/19に実施	<ul style="list-style-type: none"> ・実習校の全教職員、教育委員会教育長、宿所管理人、その他必要に応じて礼状を作成、送付する。 ・各自の実習を振り返り、報告会レジュメと報告書を作成し、報告書は教育委員会、実習校へ送付する。 ・各実習校の実習長、副実習長による実行委員会を中心に報告会を実施する。報告会では、個人の成果と課題、グループ毎のテーマについて協議し、学んだこと等について発表する。

3 活動の概要

(1) 実習校並びに宿所

実習校	人数	宿所
山県郡北広島町立新庄小学校	11名	グリーンヒル大朝
山県郡北広島町立大朝小学校	11名	グリーンヒル大朝
山県郡北広島町立豊平小学校	18名	どんぐり荘
山県郡北広島町立壬生小学校	15名	アザレア千代田
安芸高田市立来原小学校	10名	エコミュージアム川根
安芸高田市立川根小学校	6名	エコミュージアム川根
安芸高田市立船佐小学校	6名	エコミュージアム川根

(2) 教育実習を通して学んだこと（学生の報告書より）

- ・この実習を通して、教師という仕事の楽しさや大変さ、そして何よりこの職業のやりがいの大きさを肌で感じる事ができた。教師になりたいという思いがさらに強くなった実習だった。教師と児童の関わり方、児童一人一人のことをしっかりと見ながらのスムーズな授業展開など実際の現場でしか見ることができないようなことを経験させていただいた。自分が教師だったら今こうしなければならぬ、このような言葉がけをするだろうということを自然と考えていた。一週間という短い期間だったが、自分が教師になった姿をイメージしながら児童と一緒に学校生活を送ることができ、本当に充実した実習となった。
- ・私はこの実習で児童と様々な場面で関わる事ができた。その中で、先生はすべての言動に責任を持たなければいけないと感じた。児童から「これはどうしたらいいですか。」と聞かれたとき、私は自信を持ってはっきりと答えることができなかった。また、先生らしい堂々とした振る舞いができなかった。実際の学校現場を見て、先生は常に先のことを予想し、あらゆる状況に対応できるように考えて行動する必要があると実感した。これは、授業展開を考える上でも同じだと思うので、先を見通すということのをこれからの自分の課題として、普段の生活から意識したいと思った。

4 成果と課題

今年度も、1日2コマ連続の事後報告会、3年生のアシスタントを継続した。ほぼ昨年どおりの成果はあったが、アシスタントの参加が昨年度より少なかった。3年生に対して、主体的な参加を促し、学んだことを伝えることの意義を理解させる必要がある。

また、体調管理や実習中の態度について課題のある学生がいた。事前学修の際の指導をさらに徹底する必要がある。

さらに、次年度から安芸高田市立来原小学校が船佐小学校と統合するため、実習態勢を変更しなければならない。

大学においても、新教育課程へ移行するため、通年科目の「学校教育の体験活動」における位置づけを考えていかなければならない。同時に、男女共学化に伴い、宿所での生活にも配慮しなければならない。

以上のように課題は山積しているが、実習校と連携を取りながら成果を上げていきたい。